

2023年2月の行事予定表

1	水		16	木	祈祷会
2	木	祈祷会	17	金	
3	金		18	土	
4	土		19	日	礼拝式(説教一中谷信希師)
5	日	礼拝式、役員会	20	月	
6	月		21	火	
7	火		22	水	
8	水		23	木	祈祷会
9	木	祈祷会	24	金	
10	金		25	土	
11	土	2, 11 集会(平和集会)講師守田敏也氏「世界の現状における非暴力の可能性」岡山カトリック教会 14-16	26	日	
12	日	礼拝式、臨時教会総会	27	月	
13	月		28	火	
14	火				
15	水				

# 教会月報

2023年2月  
No.381

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

## 嘘うそ(フェイク)と 真実(ファクト)

「ほかの福音と言っても、もう一つの福音があるわけではなく、ある人々があなた方を惑わし、キリストの福音を覆そうとしているにすぎないのです。」

新約聖書・ガラテヤ1章7-8節

最近目につくことですが、新聞やテレビでは対立する論調が多いと感じます。インターネットや、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)でも様々な意見が表明され、何を信頼するべきか躊躇することもあります。

米国での大統領選挙の結果を受け入れない人たちが抗議して、国会議事堂を不法占拠した事件がありました。その根拠は、嘘と真実の乖離によるものです。何が正しく、何が間違っているのかを判断するのは、民主主義においては、司法における裁判所の判断でしょう。

さて、聖書の中で、使徒パウロはガラテヤの信徒への手紙中、ニセ教師の働きでパウロの教えを捨てたことに驚きつつあきれています。パウロが伝えた福音＝神の独り子イエス・キリストの十字架と復活、がキリスト教信仰者にとり重要であり、その意味を理解し、その教えを欠かしてはならないものでした。それをガラテヤの信徒はニセ教師の間違った教えに騙されたのです。パウロは再度、ガラテヤの人々に語り掛け、ニセ教師の間違いに気づき、正しい信仰生活に戻る事を願いました。

わたしたちは、日常の中で何が嘘で何が真実かを見極めることが求められます。

牧師 永松 清

### 編集後記

- ◇ 新年あけましておめでとうございます。岡山ナザレン教会にとって、この新年は特別な年となります。
- ◇ 長年、牧会の働きをされた永松先生ご夫妻の退任を前に寄稿していただいた淑子先生の証しは、長い時間軸を圧縮した様々な出来事と、その中心に貫く信仰の軸を思わせるものでした。その軸をもって私たちもこの時を迎えたいと思います。
- ◇ 「主なる神はこう言われる。わたしは高いレバノン杉の梢を切り取って植え、そのやわらかい若枝を折って、高くそびえる山の上に移し植える。---それは枝を伸ばし実を付け---あらゆる鳥がそのもとに宿り、翼のあるものは全てその枝の陰に住むようになる。」





# 2023 新年礼拝

## 神に感謝

永松 淑子

39年前の3月、桜が満開の教会に着任し今日までの歩みは主と人々に支えられた感謝な人生でした。

教会にはご高齢の方々が多く、老いを感じさせないほど主日礼拝・成人科・教会学校・伝道会、早天祈祷会・祈祷会・家庭集會に集われ良き交流が持たれていました。働き盛りの青年会、壮年会、婦人会(現在の女性会)の惜しみないご奉仕は信仰の継承にも力を注がれ受洗者も与えられました。長い間の祈りを通し、若婦人会の集いを月1回持つことができ学区のお母さんたちと合わせ15名前後で聖書の学びやお交わりをし、その中から祈祷会にも出席される方が起こされ、教会の交わりが楽しいと足を運んで下さった思い出があります。

教会学校では小林春姉妹、松本利孝兄弟、信子姉妹、村上富香姉妹、I姉、D兄のご奉仕により夏季学校は1泊2日で「小鳥の森」で宿泊、聖書の学びやレクリエーションを楽しみました。クリスマスの降誕劇の練習に励んでいたところの子供たちを懐かしく思い出します。昔も今もやんちゃで元気な子供たちですが思いやりもあり、めっちゃ可愛い子供たちでした。教会に来てくれてありがとうと帰る後ろ姿を見ながら祈りますが、反対に子供たちに育てられている恵みを感謝しています。また、引退教職者の河合美恵子師、青木恵美子師、大田建士師・聖子師、献身者で牧師夫人であったF姉など主にある交わりをいただき感謝します。

そして、岡山教会より献身された現役牧師の大月康子師、間接的に横山司郎師の尊い働きを覚えてお祈りいたしております。

教会には重荷を負った方々のご相談も多く人の痛みを理解し寄り添うことを求められ力のない私は何時も主に助けを願い何とか導かれました。もし、教会にいなければ知ることの無かった?できなかつた?痛みも人ごととしてすごしていたかもしれません。

わたしは休暇を終え帰宅する時、十字架を見「ああ!ここには私の居場所がある。居場所は神様のもとにある」と満たされている自分に気づきます。自分の存在をあるがまま受け入れてもらえる居場所があることは大人にとっても子供にとっても大切です。あの人も、この人も神様に愛されているかけがえのない存在だと理解し温かい人間関係を結べる場所は神様のもとにあると思います。エレミヤ18章の陶工の手中にある粘土に関する御言葉に、教会は陶工のように全ての人を受け入れ続けるために立てられといることを心にとめ、神はそのことを私たちに願っておられます。主のご計画により立てられた教会の上に宣教の業がなされ前進していくことができますよう祝福をお祈り申し上げます。残された人生も神を信頼し、感謝して歩みたいと願っています。長い間の御祈りや支えを心より感謝申し上げます。

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」 | コリント13:13

令和5年の元旦、今年はこの日が日曜日で新しい年の初日に教会で通常礼拝という恵みの1月1日となりました。当日は冷え込みつつ好天に恵まれ、新年の門出が祝されているようでした。

礼拝には久々の方々も多く集われ、再会を喜び合いました。当日はあいにく奏楽者が不在となっていましたが、M姉が快く担当して頂き感謝でした。礼拝ではマルコ福音書1:9-11からの『イエス様はバプテスマのヨハネから洗礼を受け、その時に天より「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適うもの」という声が聞こえました。今日ここにいる方々も神から招かれそれに答え、神が選ばれたと信じます』というメッセージが伝えられました。

治まらぬコロナ禍や不安定な国内外の状況ですが、この元旦に教会で礼拝の恵みにあずかることができた今年がよい年になる希望を頂いた朝となりました。

## 本の紹介

池上 彰著 「聖書がわかれば世界が見える」

～日本人だけが知らない世界の教養「聖書」～



昨年12月に書評検索して見つけた本です。推薦者は牧師先生(他教団)で、『牧師という仕事柄だろうか、「キリスト教」とか「聖書」という言葉を冠した書籍を目にすると、思わず足を止めてしまう。氏は、自分はクリスチャンではないと言いつつも、世界に通用する教養として聖書を一読することを勧める、という姿勢に好感を抱いた。』と、ワクワクした文章を寄せておられました。

あとがきに、『執筆中の2月に、ロシアのウクライナ侵攻という衝撃的な出来事があり、このような暴挙について、プーチン大統領は聖書を引用して正当化しているではありませんか。また、ロシア正教の総主教が軍事侵攻について「祝福」したというニュースも衝撃的でした。(中略)こうなると、「聖書」を改めて自分で読んでみようという気になりますか。おかげで、「旧約聖書」と「新約聖書」を読み返すことができました。』と、聖書の視点から世界情勢を見ることを勧めてくださっています。本書9章では、アメリカの福音派について語り、トランプ現象とその問題点も分かりやすく解説しています。

私たちは日々、テレビ、新聞、インターネットなどで報じられる出来事を、そこで解説を鵜呑みにしがちですが、せっかく聖書を信じ学んでいるのですから、聖書に立った見方や受け取り方がもっとできるようになりたいと思われました。教会の学びのサブテキストとしておすすめです。



## オリент美術館小企画展「イエスの物語」を見に行つて

～オリент美術館ホームページより～「1900年代初頭、約100年前のパレスチナ地域の史跡、人々の暮らし、風景を写した古写真コレクション161点が2017年に当館に寄贈されました。これら写真はすべて、旧約聖書と新約聖書のエピソードに関係したものです。現在のイスラエル国が建国されて近代化する前のパレスチナ地域の様子は、聖書世界の原風景を思わせてくれます。クリスマスシーズンにちなみ、イエスの誕生や数々の奇跡、エピソードにまつわる写真を選び、新約聖書の世界を紹介します。」

ということで、早速行ってきました。展示は2階の一角に10数枚の写真とそれぞれに合う聖書のストーリーが添えられ、手前には写真の元となったポジ写真ガラス板{ガラス板に映像が焼き付けられていて、幻燈機(昔のスライドプロジェクター)でも映写できる}が展示されていました。長い一枚布で身体を包み、ターバンを巻く人々の姿にタイムスリップするような錯覚を覚えました。

これを入手したのは佐藤治子という女性で、3年間のアメリカ留学の後、1939年短期の聖書学校に参加するためパレスチナに行き、同年帰国しています。1939年と言えば昭和14年、戦時体制に日本が動き出している時代です。パレスチナに行くこと自体が希少な上どのような経緯でネガを入手することになったのか、思わずその大正生まれと思われる若い日本人女性に空想が膨らみました。

展示は2月5日までです。現代イスラエルに旅行しても、もう見ることで見ない景色の数々、この機会に是非ご覧下さい。

